

グラビア



鹿児島市桜島の黒神地獄河原で行われた、大型無人航空機（ドローン）の自律飛行および火山観測データの回収実験。

100m 離れた地点から離陸し、プログラムされた飛行経路を自律制御で飛行した。

地上には地震波形が記録されたデータ蓄積送信デバイスが設置されている。遠隔データ回収デバイスが対地高度 10m でホバリングした無人航空機に搭載されており、無線 LAN を介して地上の地震波形データを回収し、無事離陸地点に帰着した。

背後に見えるのは火口から噴煙をあげる桜島南岳である。



データ回収後に離陸地点に戻り、自動着陸した大型無人航空機。
大型無人航空機は京大生存圏研究所所有の ACSL-17RA01 (自律制御システム研究所製) を使用した。本体重量が 7.5kg (含む飛行用電池) ある 16 翅の大型ドローンであり、積載重量最大 10kg で約 7 分間の飛行可能である。まだ、試作段階にあるため、航空機本体や積載物にはシールドが取り付けられず、電気回路が剥き出しのままとなっている。今後、降雨・火山ガス・火山灰等の対策が必要となる。